

DAM BANK

本提案の対象地である下久保ダムは埼玉県児玉郡神川町に位置し、神流湖とも呼ばれている。利根川総合開発の一環として昭和34年に建造され、洪水調節、農業用水の確保、都市用水の供給、発電を行う多目的ダムである。

OUTLINES OF THIS

本提案の対象地である下久保ダム一帯は日本に点在する多くのダムと同様に、ダム建設によってマイナスイメージを持って見られてきた土地である。しかし近年は、地域振興のきっかけとして、また人が集う場として、新たな役割を担い始めており注目を集めている。

そこで本提案では「環境改善」の流れの中にある下久保ダムにおいて、水上のオープンスペースに、人工地盤による「ダムの屋根」を設計する。水以外のものを貯めることで新たな下久保ダムの可能性を提案する。

■対象地の選定

下久保ダムは堤体の全長が約600mあり、コンクリートでできたダムとしては日本最長である。また「字型」の堤体が特徴的で、その両端を結んだ三角形の大規模なオープンスペースは本提案にあたり、ふさわしい形態を有していると考え、設計対象として選定した。

ダム下流域ではダム建設により荒廃した三波石峡（国の名勝および天然記念物）にかっ

CONCEPT

起伏の激しい山間部において、ダムの水面は貴重な、そして大規模なオープンスペースを形成している。ダム建設の際に失われた生活領域でのオープンスペースが失われたことも踏まえ、水上をオープンスペースとして活用しようと考えた。そこに「ダムに水以外のものも貯める」をコンセプトに下久保ダムの新しいあり方を提案する。

STOCK FOR TREES

ダムの堤体の屋根部分は圃場としての機能を持ち、冬桜、しだれ桜、百日紅、ロウバイ、シラカシ等の地域特有の植物を育成する。水辺付近では蒔蒾や慈恵等の地域特有の生産物やヤシオツツジ、カタクリ、福寿草等を育成する。

自然資源のストックとなるこれらの植物は適宜周辺地域において利用されていく。

個人宅

街路樹

学校

地域住民

下久保ダム

公園

群馬県内の都市

地域周辺の店

八幡神社例大祭 大見のドンド焼き

STOCK OF KNOWLEDGE

下久保ダム

場の提供

- ・自然体験活動
- ・農業体験活動
- ・学校活動の場
- ・研究活動の場

下流域に住む人

■グリーンツーリズム

- 田、植生
- 農業体験、畑作業
- 植物の管理
- レジャー
- カメラ
- ジェットスキー
- ヘラブナ・ワカザギ釣り

今後の展開

本提案では、水上を活用（貯める機能を新たに付加）することでダム環境自体の価値向上を目的とした。ダムが本来持つ治水・利水といった下流の人のための機能だけでなく、水以外のものを「貯める」ことで、そこに住む人にとってもダムがメリットとなりえるような機能・プログラムを整備することでダムの新しいあり方が提案できると考えた。

貯めたものをダムに開く人たちが積極的に利用することで、地域の自然資源を安定的に供給することができ、その固有の環境を維持することにつながる。

STOCK OF ECO-SYSTEM

ダム建設前

生物の生態域

生物の生態域

植栽年度別 エリア区分

移植年数

樹木の植えた時期によって 生育のエリアが区分されて おり、一定の歳月が経つと 移植候補とされる。来客者 は樹木の大きさや案内板に より樹齢を知り、樹木によっ てストックされた歴史を知 ることが出来る。

神流湖

ストックしていくエリア

- 農協ワンド
- ひょうたん島
- 大目ワンド
- 柚木沢ガレ場
- 柚木沢馬の背
- 金比羅橋
- 神社下
- 三波石

満水位

最低水位

水辺の屋根

満水位の水際から人工地盤がせり出しており、湖の水位の変動にあわせ上下動する構造になっている。

ダム建設以前の土地利用を呼び起こし、蒔蒾の段々畑、石垣をもチーフにデザインした。広場も設けているので親水も可能である。

移植

堤体の屋根

樹木の直降を主な機能とし、湖への眺望地点を複数箇所設置した広場のデザインとなっている。移植を考慮し樹木は箱状のブロックになっている。

0m

50m

0m

150m